

第5回 婚姻

- ・婚姻は、個々の家族の形成や拡大をもたらし、人口再生産の前提となる制度である。
- ・結婚の動向は、社会変動の一側面であり、結果として人口の再生産にも大きな影響をおよぼす。

1. 日本の婚姻件数の推移

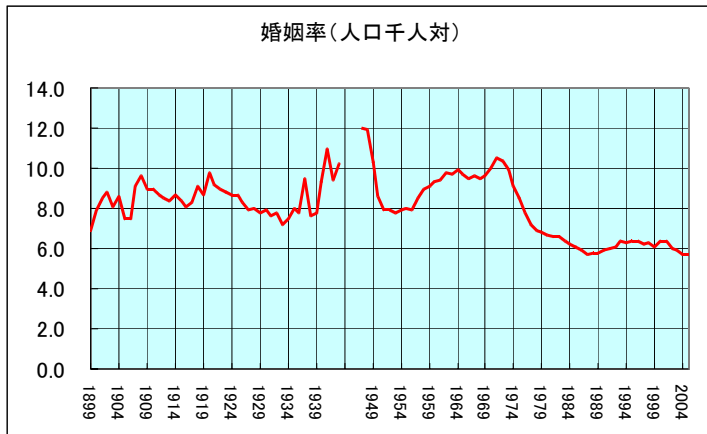


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

- ・一般的な傾向として、人口が増加すれば、婚姻件数も増加する。
- ・日中戦争・太平洋戦争の影響で、婚姻を見合わせていた世代が、戦後、一気に結婚し、1947-48年に90万件台に乗せた。やがて、この結婚が、出生数を増加させ、第一次ベビーブーム世代(「団塊の世代」)を形成。
- ・その第一次ベビーブーム世代が、1970年代前半に、婚姻件数を押し上げ、年間100万件以上になった。
- ・その後、少子化にともない、若い世代が減少。婚姻件数も減少傾向に。
- ・ただし、1990年代後半は、第二次ベビーブーム世代の成人によって、婚姻件数を70万件台に維持した。

2. 婚姻率

人口増加の影響による婚姻件数の増加を統制するために、人口千人あたりの婚姻件数を計算したものが婚姻率。

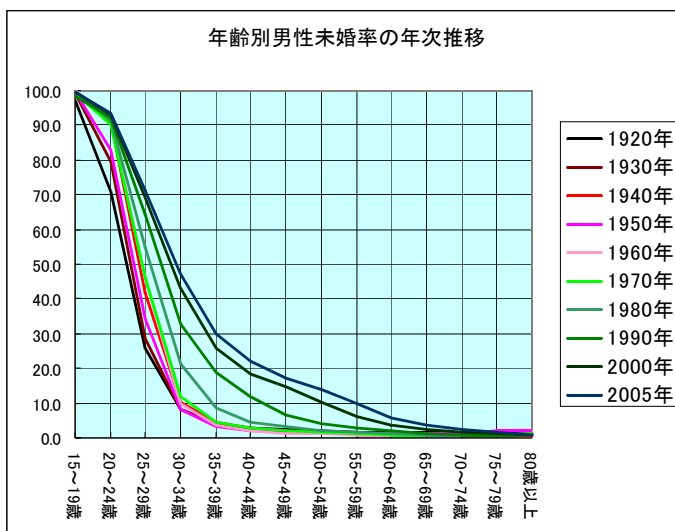


資料) 厚生労働省「人口動態統計」

- ・日露戦争後と第一次世界大戦後に婚姻率は一時的に低下したが、その直後には上昇するかたちで、戦前は 8.0 ～ 10.0 のあいだを推移。1920 年代は、婚姻率が低く、1930 年代は高かった。
- ・太平洋戦争後、婚姻率は一時的に急上昇、その後、8.0 前後に低下。
- ・1960 年代～ 70 年代前半の高度経済成長期に、婚姻率は高めに推移。
- ・1970 年代後半から婚姻率が急速に低下、80 年代以降 6.0 の水準に。
(高齢化により、結婚年齢人口が減少したこと、晩婚化など結婚しない人が増加したことによると思われる)。

3. 年齢別未婚率

高齢化の影響を統制して、世代別にどのくらい結婚しているのかを見るために、国勢調査のデータ(配偶関係)を使って、年齢別未婚率(百分率)の推移を計算してみる。



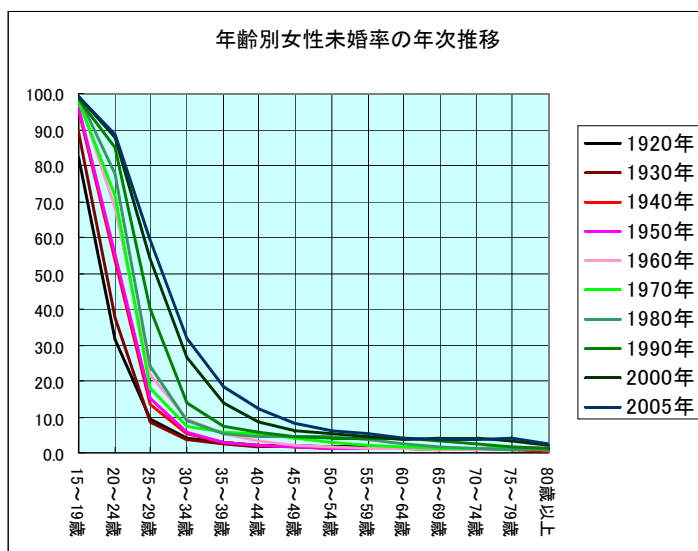
資料) 国勢調査

年齢階級別未婚率の推移（男）

	1920年	1930年	1940年	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2005年
15-19歳	97.2	99.0	99.6	99.5	99.8	99.3	99.6	98.5	99.5	99.6
20-24歳	70.9	79.6	90.8	82.7	91.6	90.0	91.5	92.2	92.9	93.4
25-29歳	25.7	28.7	41.9	34.3	46.1	46.5	55.1	64.4	69.3	71.4
30-34歳	8.2	8.1	10.3	8.0	9.9	11.7	21.5	32.6	42.9	47.1
35-39歳	4.1	3.9	4.4	3.2	3.6	4.7	8.5	19.0	25.7	30.0
40-44歳	2.8	2.4	2.7	1.9	2.0	2.8	4.7	11.7	18.4	22.0
45-49歳	2.3	1.8	2.0	1.6	1.4	1.9	3.1	6.7	14.6	17.1
50-54歳	2.0	1.5	1.5	1.4	1.1	1.5	2.1	4.3	10.1	14.0
55-59歳	1.8	1.4	1.4	1.2	1.0	1.2	1.5	2.9	6.0	9.8
60-64歳	1.7	1.2	1.3	1.2	0.9	1.0	1.2	2.0	3.8	5.8
65-69歳	1.5	1.0	1.1	1.3	0.9	0.9	0.9	1.4	2.5	3.7
70-74歳	1.5	0.9	0.9	1.4	0.9	0.9	0.8	1.0	1.7	2.4
75-79歳	1.4	0.9	0.7	2.0	1.0	0.9	0.7	0.8	1.2	1.6
80歳以上	1.3	0.7	0.6	2.0	1.1	1.1	0.7	0.7	0.8	1.0

●男性の場合

- ・各年次とも、15～19歳では、未婚率が90%を超えている。
- ・20～24歳では、未婚率は70%（1920年）～94%（2005年）。
- ・24～29歳では、未婚率は25%（1920年）～70%（2005年）。
- ・30～34歳を見ると、1920年～1970年まで未婚率は約10%だが、2005年には47%にまで上昇。1970年代から、この年齢層の未婚率が増加していることが分かる。



年齢階級別未婚率の推移（女）

	1920年	1930年	1940年	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2005年
15-19歳	82.3	89.3	95.6	96.5	98.6	97.8	99.0	98.2	99.1	99.1
20-24歳	31.4	37.7	53.5	55.2	68.3	71.6	77.7	85.0	87.9	88.7
25-29歳	9.2	8.5	13.5	15.2	21.7	18.1	24.0	40.2	54.0	59.0
30-34歳	4.1	3.7	5.3	5.7	9.4	7.2	9.1	13.9	26.6	32.0
35-39歳	2.7	2.4	2.9	3.0	5.4	5.8	5.5	7.5	13.8	18.4
40-44歳	2.1	1.8	2.0	2.0	3.1	5.3	4.4	5.8	8.6	12.1
45-49歳	1.9	1.6	1.6	1.5	2.1	4.0	4.4	4.6	6.3	8.2
50-54歳	1.7	1.4	1.3	1.2	1.6	2.7	4.4	4.1	5.3	6.1
55-59歳	1.5	1.3	1.2	1.2	1.3	2.0	3.5	4.2	4.3	5.2
60-64歳	1.4	1.1	1.3	1.2	1.1	1.6	2.4	4.2	3.8	4.2
65-69歳	1.4	1.0	1.1	1.3	1.0	1.3	1.7	3.4	3.9	3.8
70-74歳	1.4	0.9	0.9	1.3	1.0	1.1	1.3	2.3	4.0	3.9
75-79歳	1.4	0.8	0.7	1.5	1.1	1.1	1.0	1.7	3.2	3.9
80歳以上	1.3	0.7	0.6	1.2	1.0	1.0	0.8	1.2	1.9	2.6

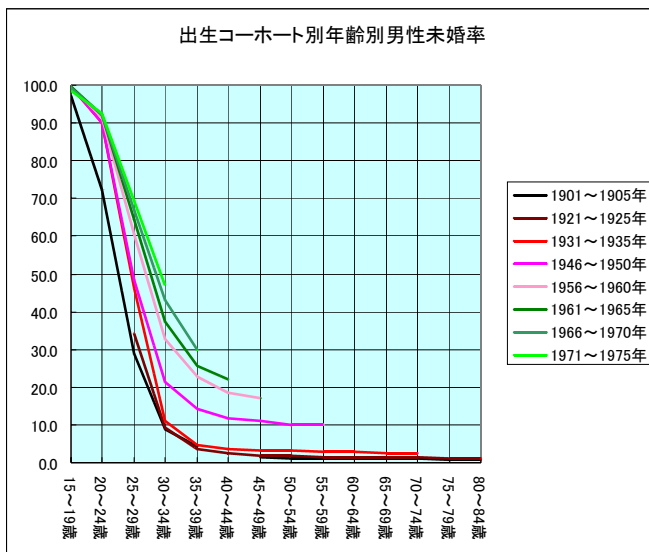
資料) 国勢調査

●女性の場合

- ・男性に比べて未婚率が低い。早く結婚している。時代による未婚化の傾向も早い年齢から現れている。
- ・20～24歳の未婚率は、1920年には30%であったが、2005年には90%に近い。
- ・25～29歳の未婚率は、1920年には10%であったが、2005年には60%に近い。
- ・30～34歳の未婚率は、1920年には4%であったが、2005年には33%に近い。とくに1990年から2000年にかけて未婚率が13.9%から26.6%に倍増している。

4. 生年コーホート別未婚率

上の表を組み替えると、生年コーホート（世代）ごとに、年齢によってどのくらいの方が未婚であるかが分かる。



資料) 国勢調査の配偶関係（未婚）から組み替え。

出生コーホート別年齢別未婚率（男）

	1901-05年*	1921-25年*	1931-35年	1946-50年
15～19歳	97.2	99.6	99.5	99.6
20～24歳	72.4	-	90.1	90.0
25～29歳	28.7	34.3	46.1	48.3
30～34歳	8.9	9.1	11.1	21.5
35～39歳	4.4	3.6	4.7	14.2
40～44歳	-	2.4	3.7	11.7
45～49歳	1.6	1.9	3.1	11.2
50～54歳	1.1	1.8	3.1	10.1
55～59歳	1.0	1.5	2.9	9.8
60～64歳	1.0	1.6	2.9	
65～69歳	0.9	1.4	2.5	
70～74歳	1.0	1.4	2.4	
75～79歳	0.7	1.2		
80～84歳	0.7	1.1		

*-1945年のデータは欠損

	1956-60年	1961-65年	1966-70年	1971-75年
15～19歳	99.5	99.6	99.4	98.5
20～24歳	91.5	92.1	92.2	92.6
25～29歳	60.4	64.4	66.9	69.3
30～34歳	32.6	37.3	42.9	47.1
35～39歳	22.6	25.7	30.0	
40～44歳	18.4	22.0		
45～49歳	17.1			

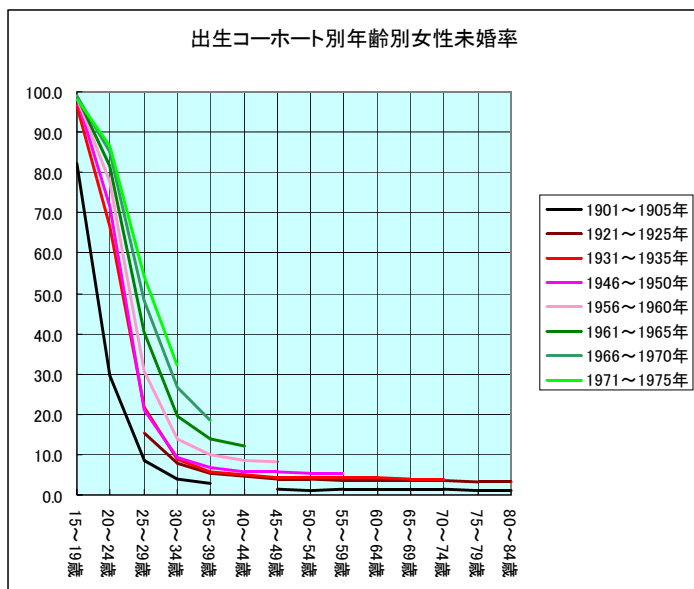
●男性の場合

・1920年に15～19歳であったのは、1901～1905年に生まれた世代。この世代は、20～24歳（1925年時点）で約3割が結婚しており（未婚率70%）、25歳～29歳（1930年時点）で約7割が結婚している（未婚率30%）。

・それより下の世代では、20歳代前半では9割が未婚。

・30～34歳の未婚率は、1901～1905年コーホート（1930年時点）では、1割未満であるが、世代が下がるごとに上昇し、1971～1975年コーホート（2000年時点）では、4割以上である。

・1946～1950年コーホートの未婚率は最終的に10%に留まっていることから、それより若い世代でも、生涯未婚の人が10%以上はいるものと予想される。



出生コホート別年齢別未婚率（女）

	1901-05年*	1921-25年*	1931-35年	1946-50年
15～19歳	82.3	95.6	96.5	98.5
20～24歳	29.6	-	66.4	71.6
25～29歳	8.5	15.2	21.7	20.9
30～34歳	4.0	7.9	9.0	9.1
35～39歳	2.9	5.4	5.8	6.6
40～44歳	-	4.7	5.0	5.8
45～49歳	1.5	4.0	4.4	5.6
50～54歳	1.2	3.8	4.4	5.3
55～59歳	1.3	3.5	4.2	5.2
60～64歳	1.3	3.5	4.1	
65～69歳	1.3	3.4	3.9	
70～74歳	1.6	3.4	3.9	
75～79歳	1.0	3.2		
80～84歳	1.0	3.2		

*-1945年のデータは欠損

	1956-60年	1961-65年	1966-70年	1971-75年
15～19歳	98.6	99.0	98.9	98.2
20～24歳	77.7	81.4	85.0	86.4
25～29歳	30.6	40.2	48.0	54.0
30～34歳	13.9	19.7	26.6	32.0
35～39歳	10.0	13.8	18.4	
40～44歳	8.6	12.1		
45～49歳	8.2			

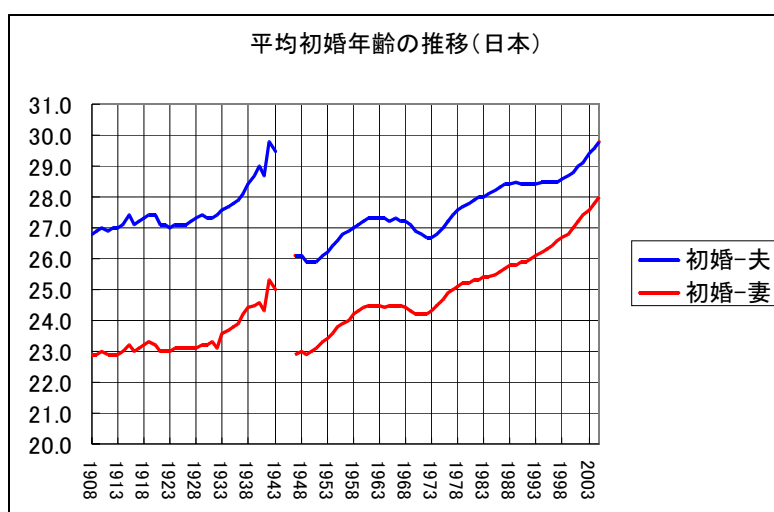
●女性の場合

・1901～1905年生まれコホートは、15～19歳で、未婚率が80%（2割が婚姻経験者）、20～24歳で、未婚率が30%となっており、20歳代前半でかなりの人が結婚している。

後続世代に比べて、早婚。

・25～29歳の未婚率をコーホートごとに見ていくと、1901～1905年生まれコーホートが1割以下であるのに、1931～35年生まれと1946～1950年生まれでは2割、1956～60年生まれでは3割、1961～65年生まれでは4割、1971～75年生まれでは5割を超えている。世代を追うごとに晩婚化が進んでいる。高学歴化、女性の社会進出と子育て困難、とくに近年では若年男性の失業などがその原因であると考えられる。また、晩婚化や未婚率の増大は、少子化の原因の一部になっていると思われる。

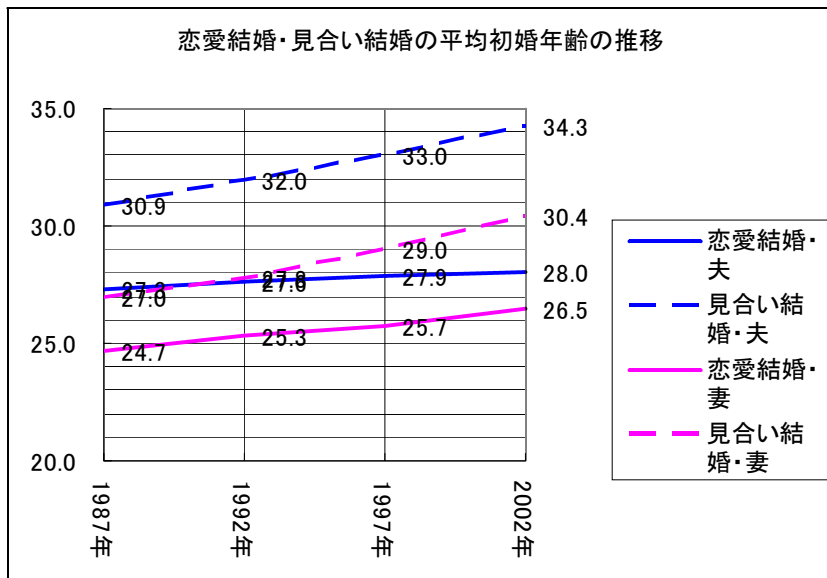
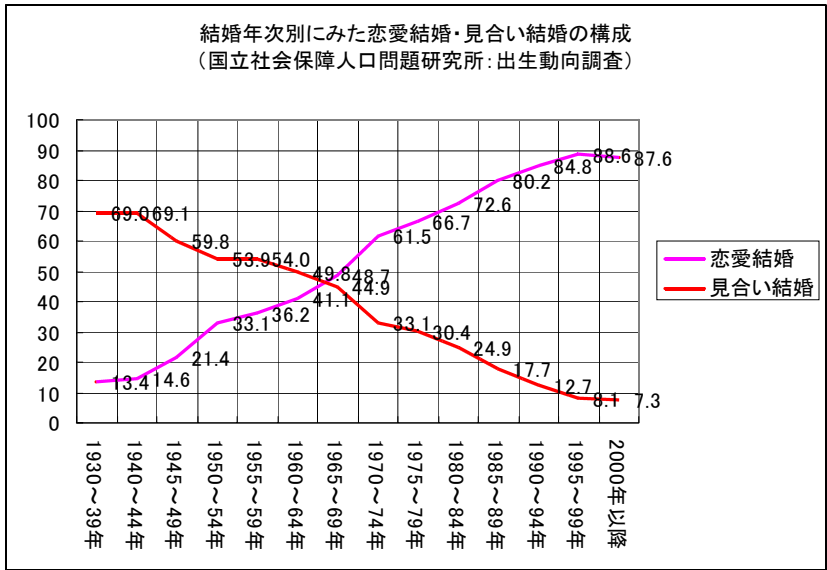
5. 平均初婚年齢



資料) 人口動態統計

- ・1930年代に平均初婚年齢は上昇傾向にあった。おそらく戦争の影響であろう。
- ・戦後、平均初婚年齢は、若返り、ふたたび上昇し始めた。
- ・1960年代後半から70年代初頭にかけて、平均初婚年齢は若干低下している。(なぜ? →恋愛結婚の普及※)。
- ・1970年代後半以降、晩婚化の傾向が顕著。2005年に男性29.8歳、女性28歳になっている。高学歴化、女性の社会進出・子育て困難、失業などの影響であろう。
- ・また、平均年齢で見た場合、夫婦の年齢差が縮小している。

1970年前後に、見合い結婚と恋愛結婚の比率が逆転している。また、見合い結婚よりも恋愛結婚のほうが、平均初婚年齢は2～4歳ほど若い。このことから、1970年前後の初婚年齢の低下は、恋愛結婚の普及によるものと推定できる。



<http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou12/doukou12.asp>

国立社会保障人口問題研究所「第12回出生動向調査」

6. 要約

- ・長期にわたる戦争は、婚姻率を低下させる。
- ・戦後、婚姻率は上昇したが、1970年代後半以降は、低下傾向にある。
- ・男性・女性各年齢層とも、時代が下るにつれて、未婚率が高まる傾向にある。
- ・出生コホート別に見ても、世代が下るにつれて、未婚率が上昇する。
- ・平均初婚年齢は、日中戦争・太平洋戦争時に上昇した。
- ・戦後は、ふたたび若返ったが1960年代前半までいったん上昇した。
- ・1970年前後に、見合い結婚から恋愛結婚に転換。初婚年齢はわずかに若返った。
- ・1970年代後半以降は、平均初婚年齢は上昇傾向にある。高学歴化、女性の社会進出・子育て困難、若年層の失業率の増大が、晩婚化を促進、結果的に少子化をもたらしている。